2013年 秋号
Vol.32
―季刊年4回発行―

私たちは、いつもココロでつながっている。
さあ！みんなで世界へふみ出そう!!

NEWS Letter

二本松青年海外協力隊訓練所

ADATARA
あだたら

Contents

特集 ふくしまFM
「キミノチカラ、海をこえて～青年海外協力隊の道～」トークビューイング開催！

アンダーグラフ・真戸原直人さん スペシャルインタビュー

P3 イベントレポート・VOICE
P4 現地レポート「From フィリピン」

JICA Volunteer

ふくしまFM

キミノチカラ、海をこえて ～青年海外協力隊の道～

トークビューイング開催!

毎週土曜日朝8時30分から好評放送中、ふくしまFM「キミノチカラ、海をこえて～青年海外協力隊の道～」。10月6日(日)は、スタジオを飛び出して郡山女子大学を舞台に、トークビューイング(公開収録)が行われました。

番組では、毎週協力隊経験者をゲストにお招きし、任国について、活動について、帰国後の進路や夢などについてお話しいただいています。

今回のゲストは、いわき市出身で、フィリピンで村落開発普及員(現在は「コミュニティ開発」に名称を変更)として活躍された草野恵美（くさのえみ）さんです。今年8月に草野さんの任地へ取材に行った番組パーソナリティのDJイタルさんと、写真と音声を交えてお話しいただきました。

そして、この日は特別ゲストに、ロックバンド・アンダーグラフのボーカル真戸原直人（まとはらなおと）さんをお迎えしました。真戸原さんは今年1月に**「なんとかしなきゃ!プロジェクト」**(※)のメンバーとして、アフリカ・マラウイを訪問しました。そこで見たマラウイの様子や協力隊とのエピソードをお話しいただき、さらに、スペシャルライブも行われました。

今回は、収録・ライブ直後の真戸原さんを直撃しました!

フィリピンでの活動について話す草野さん。(写真左)

発展途上国は多くの課題を抱えています。それを一人でも多くの方に知ってもらい、その解決をめざす国際協力の必要性を社会全体で共有して行きたい。そんな思いを共有する人、団体などで進めるのが「なんとかしなきゃ!プロジェクト」です。

「なんとかしなきゃ!プロジェクト」では、アンダーグラフ・真戸原さんのように国際協力に関心のある著名人・有識者にメンバーとして参画いただき、ブログで呼びかけたり、イベントで講演したり、国際協力現場を訪問してその様子を動画で紹介するなど、それぞれの経験やメッセージを発信していただきます。

詳しくはこちら⇒http://nantokashinakya.jp/

アンダーグラフ・真戸原直人さん スペシャルインタビュー

スペシャルゲスト、真戸原さんの登場

―まずは、イベントを終えての感想をお願いします!

マラウイから帰国して時間が経っていたので、改めてこのタイミングで色々なことを思い出したり話をしたりして、僕自身、身が引き締まる思いでした。

―どのような思いで、イベントを引き受けていただけましたか?

国際協力や青年海外協力隊に興味のある方がラジオを聴いていたり、会場まで聴きにきてくれたりしたと思うので、「大変なこともちろんあったけれど、楽しかったよ、みんな素敵やったよ」ということを伝えたいと思いました。実際に協力隊に会うまでは、普通の人ではできないようなことをやっている人たちがたくさんいるんじゃないかなと思っていましたが、そうではなくて、普通の学生生活を終えて参加していたり、「海外に興味がある」の延長上に協力隊があったりと、「きっかけは身近なことで、特別なことではないんだよ」ということを伝えたいと思いました。

―今回のイベントでは、「なんとかしなきゃ!プロジェクト」のメンバーとしてマラウイを訪問されたときのことについてお話しいただいたわけですが、真戸原さんの目にマラウイはどのように映りましたか?

たくましい子ども達が歯でヤシの実をかじって食べている姿を見て、日本の子どもは負けているなと思いました。それから、イメージとこんなに違うのだなということがたくさんありました。行く前は、灼熱で暑くて、食べるものもあまりない中で…というざっくりしたイメージでした。日本に伝わっているのって食糧不足とかそういった面でしたし。でも実際には、野菜や果物が収穫できるので、饑餓というものがないと知ってとても驚きました。ただ、食料はあっても医療問題など別の問題があるということは知りませんでした。「知る」ということで改めて自分たちの生活を客観的に見ることができ、視野が広がりました。

―マラウイでは女性隊員のたくましい姿に驚かれたようですね!

こんな子たちっていうと失礼ですけど、華奢で女の子らしい女の子がマラウイの人たちに交じって、馴染んで、テキパキやっている姿を見て、人生の中でも忘れられない時間を過ごしているのだろうなと感じました。もちろん、それは誰でもできるというわけではなく、それなりに意識も要るとは思うのですが。自分は協力隊に行くことはなかったので、その姿を見て少し羨ましい気持ちもありました。

―協力隊の活動先も訪問されていますが、特に印象深い隊員はいますか?

体育隊員の秋元さんは、現地の方と本当に向き合って、同じ目線で生徒と話していました。凄く怒るし凄くほめるし、すごい情熱がそこにありました。それは日本に帰ってきて社会に出て行っても同じようにできるのだろうなと思います。日本にいると、一生懸命やらなくちゃいけないという状況がない場合もありますから、それを感じに行くというのはいいなと思いました。

―隊員の暮らしぶりはいかがでしたか?

イメージでは、無欲にただ協力隊の活動を全うするのだと思っていました。でも、2年間活動するというのは最初の勢いだけでは無理なので、彼らはそれなりに街を楽しんだり、現地のものを使った料理を楽しんだりしていました。中には、恋愛に悩んでいる人たちもいましたね。それも含めて楽しんでいるというのも知って欲しいです。そういう基盤があったうえで協力隊の活動ができることがわかりました。

―マラウイにあって日本にないものは何かありましたか?

人が困っていたら自然にみんなで助けることや、子どもたちの心から楽しそうな、野性的な笑顔ですかね。もちろんお母さんたちは大変な問題を抱えているようでしたが、それが子供に連鎖していないという印象を僕は受けました。

―マラウイ訪問を通してどんなことを考えましたか?

日本でも、震災があってなかなか水が飲みにくい時期があったけれど、それが当たり前の人たちもいる。全てにおいて自分たちもおじいちゃん、おばあちゃん、それより先の人たちがつくってくれた・教えてくれたものの上に生きているんだと思えるようになりました。それをひとつずつお返しするように、人から人にひとつ教えるというのが連鎖しているのだなと思いました。

―最後に国際協力の道や、青年海外協力隊に興味を持っているみなさんへメッセージをお願いします!

少しでも興味がある人がこの冊子を手に取っていると思うのですが、こういう支援活動が行われているということを知ることがきっかけになると思うんですよ。興味がある人はどんどん進んでみて、だめだったらやめればいい。そこまでは自分を信じて進んでいってほしいです。

真戸原さんの
熱い想いがこめられた
スペシャルライブ

PROFILE

真戸原 直人

ロックバンド・アンダーグラフのボーカル。ポリオワクチンを届けるために自らのアーティスト印税を寄付したり、ハイチ大震災への義捐活動や東日本大震災への義援プロジェクトなど、音楽を通しての社会的活動にも積極的に参加している。なんとかしなきゃ!プロジェクト著名人メンバー。

EVENT REPORT

イベントレポート1
平成25年度 JICA二本松教師海外研修
フィリピン派遣

ネグロス・オリエンタル州マララグ小学校にて『ふるさと』を合唱。

8月1日から10日まで「教師海外研修」が実施され、福島県内の先生方8名をフィリピンへ派遣しました。首都のメトロマニラでは専門家派遣/円借款等のJICA事業の現場や、貧困層を対象に活動するNGOや聾学校等を訪問。ネグロス島では3名の青年海外協力隊員の活動地をそれぞれ訪問し、国際協力の現場を視察しました。

参加した先生方は、活気あふれるフィリピンの様子やそこで活躍する協力隊の姿に刺激を受け、研修が進むにつれ「フィリピンで活躍する日本人を福島の子どもたちに伝えたい」との思いを強くしました。また、各訪問先では先生方から現地の方に福島の魅力や震災の被災状況を伝える場が設けられ、皆真剣に聞き入っていました。

今後は、研修で得た知見や経験を授業の中に取り入れていき、最終的には一般公開で報告会を実施します。

イベントレポート2
ユース国際協力ミーティング2013

自分たちの国際協力川柳を発表!

9月28日～29日の1泊2日の日程で、ユース国際協力ミーティングがJICA二本松で開催しました。これは福島県とJICA二本松の主催、ふくしま青年海外協力隊の会の協力によって開催される高校生を対象にした国際理解のためのイベントです。

初日は「もしも世界が100人の村だったら」や「貿易ゲーム」などの体験型の講座を通し、貧富の差や経済格差を体感しながら学びました。2日目は青年海外協力隊として活動した方々の体験談発表を聞き、支援のあり方を考える講座が続きました。最後は2日間を通して考えたこと・感じたことを川柳にして発表しました。

参加者からは「普段の授業では学べないことを肌で感じることができた」、「帰って友達に伝えたい」などの感想が寄せられました。

VOICE
ボイス

飲食 安兵衛（二本松市）店主
中島（なかじま） 行子（ゆきこ）さん

このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援してくださっている県内の皆様にインタビューし、JICAボランティアとのエピソードや期待・エールをうかがっていきます。
第3回目は、岳温泉に飲食店を構える"安兵衛のおばちゃん"こと中島行子さんにお話をうかがいます。

―「安兵衛」を岳温泉にかまえてどのくらいになりますか?

お店を初めて35年になります。主人が7年前に亡くなったときに一度お店を閉めていましたが、訓練所ができてからほとんどずっと訓練生やスタッフとの交流があります。

―訓練所ができてもうすぐ20年、その間たくさんの協力隊・候補者たちと出会ってきたと思います。彼らの印象はいかがですか?

見た感じから協力隊は他の同年代の人たちとは違いますね。若くて元気です。若い人が岳にいるというのは良いですね。訓練生がいるだけで賑やかな雰囲気になるので、温泉街の活性化になっています。ただ、最近変わってきたのは男性が控えめな感じがします。真面目なんでしょうね。女の子のほうが元気ですよ。昔の男性隊員はもっと野生的で、雪の中、真っ白になりながら走ってお店に来てくれたりしてね。ただ、男性の方も任地での活動を終えて帰ってくると、すごくたくましくなっていて、自転車で日本一周しながら安兵衛に寄ってくれる人もいるのですよ!

―印象深い隊員もいたのではないですか?

毎週末飲みに来てくれる男性5人組がいました。いつもお店に来てはだらだらしていので、大丈夫なのかな?なんて思っていました。そしたら、最近写真を送ってきてくれたのですが、それが、現地の学校で白いシャツを着て黒板に向って喋ってる立派な姿だったのです。その姿を見ていいなぁと思いました。協力隊になってしっかり成長しているのだなと感じました。

―「安兵衛」を心の拠り所に訓練に励む候補者がたくさんいるわけですが、みなさんにはどのような協力隊になってほしいですか?

現地の方をけちらしたり、文句言ったりしないで、現地の人たちと交流しながら日本の良さを自然に伝えるような人になってほしいです。最近、テレビを見ていると、日本に来ている外国の方に「日本のいいところ」を聞いているような番組をよく観ますが、彼らの答えることは、私たちにとっては当たり前なことばかりです。"協力隊"だからといって変に気張らずに、今までやってきたことを大切に、地道に人として当たり前のことをしてきてください。訓練がうまくいかないぐらいで落ち込まないで!

―最後に現在世界中で頑張っている協力隊にメッセージをお願いします!

がむしゃらにやると負けちゃうので、こつこつと気長に、現地の方の邪魔にならないようにしていれば、段々と自分のやることの良さをわかってもらえるはずです。頑張って!

安兵衛・玉美でお待ちしています!

とても気さくで明るい行子さん。これからも、訓練生を温かく見守ってください。ありがとうございました!

JICA ボランティア

現地レポート from Philippines

福島県出身

フィリピン

ふくだ ちえ
福田 千恵さん

平成24年度1次隊

出身地：会津美里町

派遣国：フィリピン

職　種：養護

▲制作活動の授業。

私は、フィリピン、ケソン島、ケソン州、ルクバンという町で活動しています。任地ルクバンは、首都マニラから、バスとジプニー（乗合ジープ）を利用して約5時間の場所にあります。山に囲まれた町で、雨が多く降り、夜は毛布がないと眠れないほど寒い時期もあります。ルクバンでは、パヒヤスという食の祭りと、ルクバンパンシット（麺）、ロガニーサ（ソーセージ）が有名です。

▲ルクバンパンシット

▲トライシクル

私の活動先は小学校にある特別支援学級です。月曜から金曜日、朝7時から夕方17時まで活動をしています。活動先では、低学年の子供の個別の学習指導、集団学習の補佐、制作活動や調理、算数などの授業提案と実施、授業で活用できる教材の作成・提供などを主に行っています。

▲レチョン

フィリピンでは、毎日の通勤にはトライシクルというバイクタクシーを利用します。（一回の乗車8ペソ=約20円）学校周辺では毎朝、トライシクル渋滞が発生するほどです。ピンク色や黄色、青色とカラフルに装飾されたおしゃれなトライシクルも多いです。

▲ニンニャの歯磨き指導

任期も残すところ5か月となりました。次の私の誕生日には、ここでの習慣に習って、誕生会を開催しようかと考えています。フィリピンでは、誕生日の人が、レチョン（ブタの丸焼）やケーキ、豪華なお料理で感謝の気持ちを込めて御もてなしをします。

日本からフィリピンまでは飛行機で約4時間と距離は近いですが、その暮らしは日本とは大きな違いがあるように感じます。残りの任期、現地の人たちとフィリピンの文化にどっぷり浸りたいと思います。

JICA Volunteer

福島にゆかりのある JICAボランティア

平成25年度3次隊（2014年1月出発）

①出身地　②派遣予定国　③職種

青年海外協力隊
猪本（いのもと） 恵美（えみ）さん

①福島市
②グアテマラ
③環境教育

中学生の時から憧れていたJICAボランティア隊員。その一人にこうしてなれたことをとてもうれしく思います。派遣国であるグアテマラでは、環境教育を行ってきます。美しい自然保護や後進国特有のゴミ問題対処のため、精一杯がんばってきます。

青年海外協力隊
鈴木（すずき） 沙織（さおり）さん

①郡山市
②エクアドル
③青少年活動

中学生の頃、一人の先生が自身の海外ボランティア経験の話をしてくれたことが協力隊に参加するきっかけでした。高校生の頃には二本松訓練所での研修に2度参加し、とても貴重な体験をしたのを覚えています。福島県の子供とエクアドルの子供を繋げるような活動ができればと考えています。任地でも前向きに全力で頑張ります!

福島県出身ボランティア

2013年10月31日現在
合計派遣中32名／累計651名

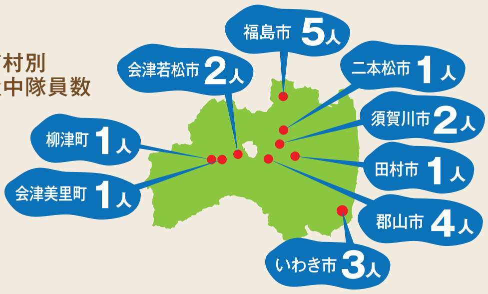
青年海外協力隊			
派遣中	30	累　計	591

シニア海外ボランティア			
派遣中	2	累　計	46

日系社会青年ボランティア			
派遣中	0	累　計	9

日系社会シニアボランティア			
派遣中	0	累　計	5

市町村別
派遣中隊員数



イベント情報

ふくしまグローバルセミナー2013
～クリスマスはJICA二本松で世界を学ぼう～

「ふくしまグローバルセミナー2013」は、多文化共生・国際交流・国際理解教育・国際協力についての参加型セミナーです。外国出身者による母国紹介や国際協力レポートなど幅広い内容の講座があります。お誘いあわせの上、ご参加ください!

●日時／平成25年12月21日(土)10:30～
　　　　　　　　22日(日)～12:30
●場所／JICA二本松
●募集／高校生以上 150名
●締切／平成25年12月2日(月)必着
●費用／21日のみ　1,000円(昼食代・資料代等)
　　　　1泊2日　　4,000円(食事代・宿泊費・資料代等)
●問い合わせ・申し込み
福島県生活環境部国際課(グローバルセミナー担当)
Tel: 024-521-7183

FUKUSHIMA GLOBAL SEMINAR 2013
参加者募集
ふくしまグローバルセミナー 2013
～クリスマスはJICA二本松で世界を学ぼう～
「ふくしまグローバルセミナー2013」は、多文化共生・国際交流・国際理解教育・国際協力についての参加型セミナーです。外国出身者による母国紹介や国際協力現場レポートなど幅広い内容の講座があります。
日時　平成25年12月21日(土) 10:30～ 22日(日)～12:30　21日のみの参加も可
場所　JICA二本松（福島県二本松市）
募集　高校生以上の方 150名
募集締切　平成25年12月2日(月)必着
※但し、先着順受付とし、定員になり次第申し込みを締め切らせていただきます。
参加費用　《21日のみ》¥1,000（昼食代・資料代等）《1泊2日》¥4,000（食事代〈4食〉・資料代・宿泊費等）
●主　催／福島県国際理解教育ネットワーク（福島県、福島県教育委員会、(公財)福島県国際交流協会、JICA二本松）
■セミナーの最新情報については福島県国際課のホームページをご覧ください。
福島県生活環境部国際課　検索

12月～1月 イベントカレンダー

12月
- 18にち　平成25年度3次隊修了式
- 21・22にち　グローバルセミナー2013　場所:JICA二本松

1月
- 8にち　平成25年度4次隊入所式
- 18にち　JICAボランティア帰国報告会・留守家族連絡会　場所:二本松市 市民交流センター

JICA二本松 青年海外協力隊訓練所 Facebook

JICAボランティアの募集や訓練に関する情報、県内でのイベント告知などをタイムリーに発信していきます。「いいね!」を押して、JICA二本松のFacebookページに参加してください!
http://www.facebook.com/jicantc

ラジオ番組のご案内

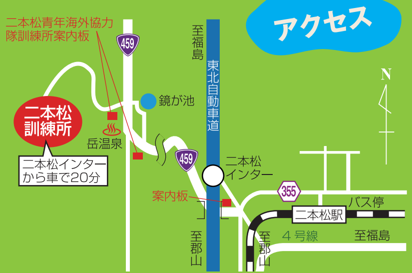
●FM Mot.Com
「世界も、自分も、変えるラジオ」
毎週木曜／13:00～13:30

4月4日から始まった新レギュラー番組「世界も、自分も、変えるラジオ」は二本松訓練所で訓練中の候補者らが独自に制作する番組。協力隊が活動する開発途上国の話題や日本全国各地から集まった訓練候補者たちの熱い思いや将来の夢、そして訓練所内での生活の様子を市民にお伝えする内容となっています。

●ふくしまFM
番組ブログ、Facebookも随時更新中☆
「キミノチカラ、海を越えて～青年海外協力隊の道～」
毎週土曜／8:30～8:55

JICAボランティアとして世界各地で活躍された県内在住の方々をゲストに迎え、参加の動機や派遣国での様子、ボランティア経験を帰国後どのように活かしているのかなど、現地の音楽を交えながらお送りします。

アクセス



発行元
独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
Tel: 0243-24-3200　Fax :0243-24-3214

●本誌に関するお問合わせ
JICA福島デスク　担当:八巻(やまき)　Tel:024-524-1315　Fax:024-524-8308
〒960-8103 福島市舟場町2−1 (公財)福島県国際交流協会内